

国語科学習指導案

指導者 松田 鯉栄

1 日 時 平成 24 年 11 月 19 日 (月)

2 学 年 第 5 学年 2 組 27 名 [5 年 2 組教室]

3 単 元 名 5 年 2 組新聞社 ～椋鳩十のメッセージを探ろう～

(学習材：動物と人間のかかわりをえがいた物語を読もう「大造じいさんとがん」東京書籍 5 年下)

4 単元設定の理由

- 本単元は、小学校学習指導要領第 5 学年及び第 6 学年の「C 読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には以下のように示されている。

(1)エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。 カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。
--

- 本単元では、登場人物の行動描写や相互関係から人物像をつかみ、それに対する自分の考えをまとめたり、まとめた自分の考えを交流したりする学習を行うことを通して、叙述に即して、登場人物の相互関係や心情を読み取る力と、椋鳩十の動物物語を進んで読み、作品のテーマについて自分の考えをまとめ表現する力を身に付けさせることをねらいとしている。

本教材は、狩猟を生業とする大造じいさんとがんの頭領である残雪の生命をかけた激しい戦いが、美しい情景描写とともに生き生きと描かれている作品である。物語の各場面には、大造じいさんと残雪の戦いが 1 年ごとにまとめて描かれているので、登場人物の設定、時間の経過、場所の設定などがつかみやすく、話の展開が分かりやすくなっている。最初は、残雪のことを「たかが鳥のこと」と思っていた大造じいさんが、その知恵と頭領らしい態度に心を打たれるまでの心情の変化を読み取り、両者の心の結び付きを考えることができる教材である。また、場面の転換や物語の山場の部分などに、大造じいさんと残雪の行動を映す細かい描写や大造じいさんの心情を象徴した情景描写などが多く使われているので、叙述に即して、登場人物の相互関係や心情を読み取るのにも適している。

本単元において、「椋鳩十のメッセージを探ろう」という学習活動を仕組むことで、椋鳩十の動物物語を進んで読み、作品のテーマを考えさせる。作者のメッセージを考えながら椋鳩十の作品を読み広げるとは、物語の主題を捉えるとともに、それに対する自分の考えを持ち、それを友だちと交流してさらに深めることを目指すことができる。

- 本学級の児童は、第 5 学年 6 月に物語文「世界でいちばんやかましい音」の学習を行い、「設定」「展開」「山場」「結末」という物語の構成を捉えるとともに、繰り返し音読することを通して、反復表現、擬音語の特徴やおもしろさに気づくことができた。また、「設定」の部分と「結末」の部分を読み比べて、登場人物（王子様）の心情がどのように変わったのかを読み取ることもできた。しかし、「なぜ王子様は変わったのか」「王子様の変化とともに、なぜ町の様子も変わったのか」ということについては、「展開」のどの部分と結びつくのかを考えさせながら根拠や理由を明

確にしていけることができなかつたので、物語の主題をつかむという点では十分ではなかつた。

9月に行つた物語文「注文の多い料理店」の学習では、教材文の中から表現の工夫や話の展開、登場人物の人物や行動、会話文などのおもしろさを見つけ、そのおもしろさのひみつを考え合い、おもしろさのレシピにまとめる学習を行つた。その学習を通して、紳士の人物像や紳士と山猫たちの相互関係、心情の変化などを読み取ることができた。しかし、おもしろさのひみつを考える中で、叙述に暗示されている作者の意図を探る学習と宮澤賢治からのメッセージを考える学習とのつながりがはっきりしなかつたので、作品のテーマに迫ることが難しかった。

児童は、全体的に読書を好み、物語文の学習に意欲的であり、文章の中から根拠を挙げて事実や心情の変化を読み取ることが出来る。しかし、行間や作品全体からテーマについて考えたり、筆者の作品の中における意図を読み取ったりすることは十分とはいへない。また、少人数でのペア対話やグループ対話では、意見の交流を活発に行うことができるが、クラス全体での全体対話においては、自分の考えをまとめて発表したり、友達の意見を自分の考えと比べながら聞いたりすることには課題がある。

- 指導にあたっては、「椋鳩十のメッセージを探ろう」という学習の目標をもたせ、児童一人一人が新聞記者になり、物語を読み取った内容を新聞記事としてまとめていく。新聞記事のテーマは「なぜ大造じいさんは残雪をうたなかつたのか」とし、そのテーマを追究するために、大造じいさんの行動やその結果、心情を読み取らせたい。

まず、仲間を救うために死闘を繰り広げる残雪の勇気ある毅然とした態度を区切りに物語を前半と後半に分け、大造じいさんの残雪に対する心情の変容を読み取らせる。そして、その内容を2つの記事にまとめさせる。記事には、物語の内容を的確に表現した「見出し」とその理由や根拠を書かせる。最後に、物語全体を通して、新聞記事のテーマに対する自分の考えや椋鳩十のメッセージについてまとめることで、主題に迫らせたい。

また、椋鳩十の動物物語シリーズを並行読書させる。自分が読んだ物語について「動物と人間のかかわり（あらすじ）」「クライマックス」「椋鳩十のメッセージ」の3つの読みの視点を提示して、カードに書かせる。それをもとに、「椋鳩十新聞」を書き、図書室に“5年2組新聞社～椋鳩十新聞～”のコーナーを設置することで、子どもたちのテーマ読書の成果を学級内だけでなく、全校に向けて発信していきたい。関連したテーマの作品を読み広げることで「大造じいさんとがん」の読みと理解を一層深いものにするとともに、今後の読書活動への意欲を高めることにもつながると考える。

5 研究主題との関わり

(1) 扱う言語活動例

本を読んで推薦の文章を書くこと。(読むこと 言語活動例エ)

(2) 言語活動を充実させるための指導方法の工夫

叙述に即して、登場人物の相互関係や心情を読み取る力と、作品のテーマについて自分の考えをまとめ表現する力を身に付けさせるために、「椋鳩十新聞」を書かせる。新聞記者の視点で書かせることで、登場人物の関係や心情、場面についての描写の工夫、作者のメッセージなどを捉えさせる。椋鳩十の動物物語シリーズを読み、自分が読んだ物語について「椋鳩十新聞」にまとめるために、「動物と人間のかかわり（あらすじ）」「クライマックス」「椋鳩十のメッセージ」の3

つの読みの視点を提示して、それに沿ってカードに書かせる。

6 単元の目標

- 物語を進んで読み、自分の考えを深めようとしたり、友達と進んで交流したりしようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】
- 登場人物の相互関係を捉え、人物の心情を読み取ることができる。 【読むこと エ】
- ◎ 椋鳩十の本を読み比べたり、読み広げたりすることを通して、作品のテーマ、作者のメッセージを考えることができる。 【読むこと カ】

7 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読むこと
単元の評価規準	○物語を進んで読み、自分の考えを深めようとしたり、友達と進んで交流したりしようとしている。	◎椋鳩十の本を読み、作品のテーマ、作者のメッセージを考えている。 ○登場人物の相互関係を捉え、人物の心情を読み取っている。
学習活動における具体的評価規	○叙述をもとに、場面の様子や登場人物の心情を読み取ろうとしている。 ○椋鳩十の作品を進んで読み、作品のテーマを考えようとしている。 ○自分の考えを分かりやすく発表したり、友達と自分の考えの相違点を比べながら聞こうとしている。	◎「大造じいさんとがん」を読み、叙述をもとに登場人物の心情や行動、場面の様子を読み取っている。 ○本文の叙述や読み取ったことを根拠に、作品のテーマについて自分の考えを持っている。 ○友達の考えを自分の考えと比べながら聞き、自分の考えを深め、新聞にまとめている。

8 指導計画（全8時間）

次	学 習 活 動	評 価		
		関	読	評価規準
一	学習課題「椋鳩十のメッセージを探ろう」を設定し学習の見通しを持つ。 (1) 物語の構造分析をする。 (1)	○	○	○「大造じいさんとがん」の初読の感想を交流し、椋鳩十の作品への関心を持って学習に取り組もうとしている。 ○ 物語の構造を読み取っている。
				行動観察 ノート

二	<p>「大造じいさんとがん」を読み、登場人物の気持ちや心情の変化を読み取る。</p> <p>(3)</p> <p>学習課題「椋鳩十のメッセージを探ろう」について、交流し、まとめる。</p> <p>(1, 本時)</p>	○	◎	<p>○ 叙述をもとに、場面の様子や登場人物の心情を読み取ろうとしている。</p> <p>◎ 「大造じいさんとがん」を読み、叙述をもとに登場人物の心情や行動、場面の様子を読み取っている。</p> <p>○ 本文の叙述や読み取ったことを根拠に、作品のテーマについて自分の考えを持っている。</p> <p>◎ 友達の考えを自分の考えと比べながら聞き、自分の考えを深め、新聞にまとめている。</p>	行動観察 新聞
三	<p>椋鳩十の作品と「大造じいさんとがん」を読み比べて、「椋鳩十のメッセージ」を考える。</p> <p>(2)</p>	○	○	<p>○ 椋鳩十の作品を進んで読み、作品のテーマを考えようとしている。</p> <p>○ 本文の叙述や読み取ったことを根拠に、作品のテーマについての自分の考えを書いている。</p>	行動観察 新聞

9 本時の展開

(1) 本時の目標

「椋鳩十のメッセージ」を考え、新聞にまとめることができる。

(2) 観点別評価規準

- 「椋鳩十のメッセージ」について、物語の展開と変容を根拠に、自分の考えを書いている。

[読むこと]

(3) 本時のポイント

本文の叙述や読み取ったことを根拠に、作品のテーマについて自分の考えを持ち、それを交流することで、物語全体の主題を捉えることができるようにさせる。

(4) 準備物

椋鳩十新聞

(5) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準（評価方法）
<p>1 前時までの学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 残雪は、仲間を助けるために自分の命をかけてはやぶさと戦った。 大造じいさんは、はじめ残雪をいまいましく思って、何年もかけて捕まえようとしていたが、残雪の姿から心が変わった。 	<p>○前時までに作った新聞を見て、振り返る。</p>	

2 本時のめあてを知る。		
物語全体を読み、椋鳩十のメッセージを考えよう。		
3 第4場面を読んで、大造じいさんの残雪に対する気持ちの変化について話し合う。 ・いまましい ↓ ・がんの英雄，えらぶつ ・堂々と戦う ・大きな声でよびかける ・はればれとした顔つき ・いつまでも，いつまでも見守っていました。	○残雪を見送る大造じいさんの気持ちから，大造じいさんと残雪の関係は，普通の人間と動物の関係ではないことに気づかせる。	○登場人物の相互関係を捉え，人物の心情を読み取っている。（行動観察）
4 椋鳩十のメッセージを考え，記者ノートに書く。 ・人間と動物の友情 ・正々堂々と戦う真剣勝負 ・人間と動物のライバル関係 ・人間と動物のかかわり ・動物への尊敬	○物語全体を読み，作者の伝えたい内容を「見出し」で書かせる。	
5 椋鳩十のメッセージについて，自分の考えを交流する。（グループ対話→全体対話）	○物語の展開と変容を根拠に，自分が「見出し」をつけた理由を話させる。 ○「人間と動物の友情」「動物へ尊敬」「正々堂々と戦う真剣勝負」など物語の重要なキーワードを押さえる。	○友達のを考えを自分の考えと比べながら聞き，自分の考えを深めている。（行動観察）
6 椋鳩十のメッセージとその理由を新聞にまとめる。	○対話したことや全体で交流した考えをもとに，自分の考えを持たせてから書かせる。	○物語全体から椋鳩十のメッセージを考え，新聞に書いている。（新聞）
7 今日の学習を振り返る。	○本時の授業について，「他者視点」「自己モニター」の視点で振り返り，付箋紙（ブルー，ピンク）に記入させる。	